

タイトな胸部衣服の着用と作業能率についての一考察

甲南女大短大 木岡悦子 ○森由紀

目的 ゆとりのないタイトウエアで事務作業を行なった場合、作業能率や着用感に何らかの影響を与えるのではないかと考え、密着型の長袖ブラウス形式の衣服を着用して事務作業を行なった場合と、これの対照服としてルーズウエアの着用時の作業状態とを比較検討した。

方法 被験者は20才～25才、女子6名、胸囲 79.3 ± 2.7 cm・ローレル示数 1.23 ± 0.10 の体型で、実験服はタイトウエア（T服）として綿グロード60番を使用し、各被験者が上肢下垂の状態に密着型となるようドレーピングして得た衣服（胸囲線 $70 \pm 5\%$ 、袖幅線 $4.5 \pm 0.5\%$ 、胸囲線 $2 \pm 0.5\%$ のゆとり量）を用いた。対照服は綿ジャージードレーナー型、胸囲線40%のゆとりのあるルーズウエア（L服）とした。被験者は実験室に入室30分安静後T服を着用してワープロによるキーパンチング30分、10分休憩後書写30分（作業1）を行ない、休憩後一般事務作業3時間（作業2）継続した。その間次のような測定を行なった。作業1では、右手第2指の尖に光電脈波ピックアップを、右上肢伸筋部・屈筋部に筋電図用電極を装着した。なお、実験開始前、作業1終了後、作業2終了後フリッカー測定を行なった。2日後L服を着用して同様の実験を行ない仕事量及び疲労について検討した。

結果 作業1のキーパンチングでは、T服着用時はL服着用時に比して明らかに打字数が少なく誤字率が高く、心拍数は有意に高い傾向が見られた。筋電図についても被験者の個性の違いが見られるもののT服の振幅が大きい結果が得られた。T服着用後疲労を訴える者が多く、先に述べた結果と関して疲労感と作業能率についての傾向がうかがえた。